

凌霜ラグー・クラブ 1998 (H.10) 年度 総 会

H10年10月7日 18:30 ~ 大阪凌霜クラブにて

当日、雨天のためか、会員各位の集まりが芳しくないが、東京から名取支部長を初め山下氏・久我氏等と、現役の役員諸君が集まった。

太田会長から、75周年のお祝いを込め、当会の更なる発展を願っての挨拶と乾杯。

○H.9年度決算報告。(数字は会報#42号、H10.6月号に公表の通り)

○H.10年度予算と事業計画の承認。(同 上)

○「神戸大学ラグビー部OB会の規約」が承認された。(同封送付す、保存され度し。)

○年会費は当分年1万円とし、“自動引落し制”で納付して貰う事を基本とする。

○創部75周年記念行事で残っている「記念誌の発行」の中間報告。

○現役部監督:川崎光二氏(S59)から現況報告(詳細は本会報に寄稿文掲載あり)

○現役部役員から、“リーグ戦への決意表明”。

○参加会員各位からの談話、近況の交話が楽しく弾み、

商 神 齊唱……現役軍の健闘を期待し、“当会の向上発展”を祈って閉会。

東京支部の近況

凌霜ラグークラブ東京支部 事務局 久我健夫 (S.37)
「凌霜ラグビー東京支部」の東京支部活動の手伝いも、早いもので2年が過ぎようとしています。

平成8年11月29日の東京支部幹事会において、支部の若返りの必要性を理由に、柏木前支部長(S26卒)より名取現支部長(S30卒)へのバトンタッチと支部幹事会設立が承認されて以来となります。

それ以前より、日本社会の閉塞感や、土居通顕及び永田恵一両氏(ともにS36卒)のかけがえの無い凌霜ラグーを相次いで失った悲しみを癒してくれたのが、同じグラウンドで笑い・怒り・涙した学生時代のラグビー仲間との自然発生的再会でした。昭和36~41年卒業の在京凌霜ラグーマンが東京凌霜クラブに隔月に集い、一献傾けながら青春のノスタルジーに浸りつつ日ごろの鬱憤を晴らし、会の名前も“Throw Forward”(略称“TF会”)と名付け、定期的な会合をもっておりました。

その後、先輩や若手の凌霜ラグーも参加され、又本部のご経費面の支援を戴き、“TF会”は発展的に解消し、東京支部幹事会に引き継がれた訳です。従って、隔月の定例幹事会は半数以上が支部幹事以外の凌霜ラグーで占められ、むしろ常連であります。OB相互の親睦と、現役支援により神戸大学現役ラグビー部の戦力アップを目指す面々の集まりで、時としてヒートしますが、自由闊達な意見交換のあとは年次を離れた“At Home”な素晴らしい一時です。この一時を若手OB(S50以降卒)へ広げたく願っておりますので、開催予定日を幹事会連絡網(グループ幹事)にお尋ねの上、東京凌霜クラブにお出掛け下さい。

記念誌の近況

H10.11.9:18.30~21.30:編集委員会開催

参集:マコム・プランニング社 堀 真一氏

太田会長・西松・浜田・山口・吉川・山形・森内・三森・川崎・三宅。

現状説明:

西松チーフ委員から、

主旨ご説明を添えて、各位に「ご寄稿と、アンケートのお願い」に鋭意努力し、既に寄せられたものは種類別に分類して、マコム社へ渡して居りますが、予定の200Pには、量的に又質的に遠いので、本日編集委員各位に再度会員諸氏へのご寄稿依頼をお願いしたい。12月15日迄にお寄せ願う。

マコム社 堀氏から、

現在お預かりしている原稿と写真では、貴方ご想定の方の200Pの半分にしかありません。

ままたの体裁に仕上げる為には、ご寄稿の量を、ボリュームのあるものを、しかも早く、願う。

対 処

頭書挨拶文:太田会長、柏木氏とも打合わせの上。

関連学校からの祝辞:太田会長がお願いする。

創部の頃の事:根来氏・今津氏に太田氏から依頼。

神大ジャージーの色・柄の発生・由来は?

國領氏・太田氏・山形氏がこれを追求。

Aリーグ黄金期:既に室賀氏からの寄稿があるが、更に、松下氏や松村氏他にも寄稿依頼す。

ブリスベンとの試合:川崎氏から三木氏に依頼。

大地震時の事:菅波氏、辻・溝口・岡崎氏。

監督の談話:吉沢氏、葉室氏、川崎氏に依頼。

歴代Capt/V.Captの“思いで”:お願いの担当者を決めたので、その者から再度重依頼す、等々を決議し、担当委員から重ねてしかも重くご寄稿依頼申し上げますので、受けられた方々は覚悟を決めて12月15日迄に、必ず寄稿する事。

女子ラグビーについて

島村 邦雄(S.25卒)

私が初めて、女子がタッチ(フラグ)フットボール試合をしているのを見たのは1973年パキスタンでの事でした。

当時、娘が、アメリカンスクールに在学中で、パキスタンにある四校とアフガニスタンのカブールの合計五校で三ヶ月毎にスポーツコンベンションが行われており、サッカー、バスケット、バレーボール、ソフトボールが競われていたのです。

その時の印象は、女の子が結構必死でやっているけれど、その割には危険が少ないので女子には適した良いゲームで観えていても中々楽しいものでしたヨ。

1998年に行ったコロラド州立大学(CSU)では毎日広いグラウンドで男子が四組、女子が二組くらいタッチフットボールをしています。日本人留学生6~7人がアメリカ人学生を加えて“Black SAMURAI”なるチームを作って試合をして居り、全くポピュラーなスポーツになっています。

同じグラウンドの反対側では、金曜日の夕方にはラグビーの練習もしているのを観ている内に、いつの間にか仲が良くなり、彼等の試合を応援に行ったりしたものです。試合を観に行っている内にダンダン解ってきたのは、彼等は大学のチームでは無く、その町の同好会のチームだったのです。

一方、日本の女子スポーツについては、戦前では800メートル中距離の人見絹代サン、200メートル平泳ぎの前畑秀子サン、戦後では日紡貝塚のバレーボーラー諸嬢、テニスの伊達公子サン等、世界で活躍された女性が沢山おられます。然し、お淑やかな大和撫子が格闘技に進出して来るとは私には予想出来ませんでした。でも、女子プロレスが始まった時には、『興行性が強いとは言え、これで時代はかわるかも知れんナ。ダケド集団での格闘ゲームまでにはもう少し時間が掛かるヤロ』と思っていました。

所が、1994~95年、オーストラリア・シドニーの公園で、試合では無くて練習でしたけれどウイングで長髪を靡かせて走っている女の子を見ました。また、私が住んでいたキャウラの町ではサッカーをする女の子は沢山いました。以前ラガー通信#37号&号で述べたオーストラリアン・ラグビーの応援でのネーちゃん、カーちゃん、パーちゃんの3ちゃんパワーの物凄さからオーストラリアだったらこんな事もあろうかと納得しましたヨ。

その後も1996年、全U.S.A対全日本の“女子ラグビー試合”が花園で行われる事を知り、当日観戦に出掛けました。花園に着くと、サブグラウンドで両チームがウォーミングアップをしていました。体格はアメリカの方が大きいからラインナウトは一苦労するだろうが、ボールコントロールやランニングでは其程の差は無いようにみえました。練習が終わった所でアメリカのキャプテンらしい選手に近付いて一寸インタビューしてみました。判った事柄は『東京での試合は40点差くらいで勝った事。選手はワシントン州・オレゴン州・カリフォルニア州・その他中西部の諸州からの選抜である事。一人だけアジア系の娘がいるが、あれは元・全日本のS.Oで現在シアトルに留学中との事。

等々。』後で知ったのですが、この娘サンは、元・名古屋レディスの土屋サンだった。

試合が始まった。男子とは筋肉の差もあり、両軍とも華麗なステップとかスリリングな場面はそんなに多くは無かったのですがコンタクトを怖がらずに突っ込む勇敢さには感心。唯ゲーム運びは単純で、走る・繋ぐ・フォローする、の連続で、アメリカの戦法は「ペナルティを貰っても、ゴール前以外は殆ど、体重の重いプロップに持たせて突っ込み、そこからゲームを始める」のが常でした。これは指導者が「複雑なプレーは無理」と判断しているのでしょうか。従って、点差が開いても最後までシンプルで押し通していました。結局は違った形のゲームが出来ないのかも知れません。

全日本女子軍は、前半はソコソコ頑張ったのですが、後半一寸した隙を突かれてズルズルとトライされてから結局差が60点くらい開いてしまった。試合前には善戦出来るだろうと思ったのに。

日本の対外戦を観て、いつも思う事ですが、“一体、この差は何か?”と考えると：

①ボールへの執着心の持続度

ラグビー選手なら誰でもボールへの執着心が大事な事は判って居るが、時間の経過と共にその程度に差が出来、それが一瞬の隙になりミスになります。それが重なって穴が大きくなり、更に差が拡がります。現実にアメリカは最後までボールをフォローし続け、タックルされてもすぐ立ち上がり又フォローします。そして、全員がボールをよく活かせっつ繋いで居ます。

②では、その対策は?

日本でも最近意識されていますが、全員ラグビーです。FW、BKの固定観念に捉われず、どんな場所・状況であっても、自分が今何を為すべきか?を考える事です。練習の時から、色々なポジションをこなして、色々な状況で「チームメイトがどう考え、どう動き、その中で自分は何をすべきか?」を瞬時に判断出来るようになって欲しい……と思います。

③指導者

今迄の指導者は自分でラグビーのステレオタイプを作ってそれを選手に押し付けていなかったか?指導者が「自分のラグビー観から、どんなチームを造り、そのチームでどんなゲームをするか」を考える事は必要です。然し、その実現の為には技術を支える心理面への配慮がもっと必要なのではないでしょうか?もう少し発想をフリーにしてゲーム中の変化に全員が敏速に対応出来る様に心理面を鍛える施策が必要ではないでしょうか?理想を言えば、私がオーストラリアからレポートしたように5~6歳からのジュニアリーグを充実させる事です。こうした変化する状況に対応する能力は外国人に日本語を教える時にも共通な必要事項なのです。

コロラド州に滞在中、ボルダーのコロラド大学を見学しました。その時、グラウンドでは女子ラグビーの試合が行われていました。内容は、高校ラグビーの地方予選の1~2回戦程度でした。全試合を観る時間的余裕が無かったのですぐに帰りましたが、これによって前述の1996年に花園で行われた大会の全U・Sチームに中西部からの選手も選ばれている素地が理解出来たのです。

日本でもラグビーをやりたいという女性が増えて来ましたので、そんな方々への情報として、

女子ラグビー・チームは東京・名古屋・京都・枚方・寝屋川・兵庫に既に存在しています。

現在、関西連合チームがシアトルに遠征中です。

今年、1998年の10月25日、花園で関西各チームの対抗戦が行われます。

連絡先：関西各チーム共通事務局の藤田サン(女性)

TEL：自 宅 078-411-8991

勤務先 06-363-0503

等々をご案内しておきます。

☆H.10.10.31 N.H.K./T・V 'オハヨウ日本' で、

名古屋レディス VS 京都の試合の放映があり、

15点 0点 の結果だった。

画面でみえた第一印象は、体質的にフカシ・マンジュウのブツカリアイみたいな感じだった。

突然、松尾雄治氏が観戦している所が映った。

翌日、島村サンの解説では、あれは11/25、花園での第一回関西大会から撮ったもの、との事。

女子連盟は1988年発足、現在24チーム加盟とか。

部屋に転がるラグビー・ボール達

山下 弘(S.33卒)

物置同然の私の部屋に、4個のラグビー・ボールがビニール袋に入れられて転がっている。

1個は愚息のもので、転勤の時にクラブ・チームの仲間から貰ったものらしくサイン帳代わりに表皮全面に黒マジックペンで名前や文句がいっぱい書かれている。このボールは、いずれは此処から出ていく運命にあると思う。

残る3個は私のもので、その内の2個は比較的新しく、平成4年に60歳で定年退職する時私が所属していた大阪営業所の仲間がその2~3年前まで神戸大のラグビー部の監督をやっていたのを知っていてラグビー・ボールにマジックペンで一筆づつ寄せ書きをして呉れたものと、定年後に勤めた会社の仲間から退職時に同じ様に頂戴したものです。息子の1個と、私の比較的新しい分の2個には空気が確り満ちています。

しかし、4個目のボールはもうペチャンコで、多分チューブもイカれていると思います。

30年も昔、オーストラリアへの出張の話が出た時、商社の課長に「あんた一人で行きまへんのか？」と言われ、こっちは海外なんか行った事は無かったけど頭に来たんで「イットロやないか！」と大見得を切って引き受けたんはよろしおましたけど、当時の事で本屋へ行っても「ガイドブック」も「地球の歩き方」なんて本もまだまだ出でおらずその上、よー考えたら英語なんか喋った事おまへんし、喋るところか知らんのやさかいしょうがおまへん。泣く泣くカントスとやら言う機上の人になりましたんや。そやけど、あれはプロペラ機やのーて一応ジェット機でしたなア。

飛上がって、サテ水割りでも頼むかの段になって「ハタ」と困りましたんや、どない言うたら通じるんやろ、と考えた挙句、身振り手振りでウイスキーと水とアイスとなんてやってたら「ウイスキーウォーター？」と聞かれ、「オーソレソレ」てなもんでやっとな水割りにありつけましたんや。

ところが、次に頼んだら、今度は「ハイボール」を持って

来りましたんや「これちゃうでェ！」と文句を言うたと思うたけど、ちょっと待てよ、これはキツワシの発音が悪かったんに違い無いわ、と思い直したんでっけど、その後3年くらいして、ミネラル・ウォーターにはガス入りとノン・ガスとがあるのを知って、あの時文句言わんで、恥かかんで良かったなアと思っています。

飲んだら次は出す方でんがな。トイレに行こうと通路を歩いてたら、向こうからスチュワーデスが来りまんねん。何処で避けようかと思う間も無くスチュワーデスがいきなり抱きついて来てそのまま180度回転して2人の位置を入れ替えてこっちの顔みてニッコリ笑ってバイバイ。これには唾然としたけど、ワシその時どんな顔してたんやろナア。エッヘッヘッヘ……。とにかく機内で早やオーストラリア気分を満喫。滑り出し上々テンナア。

飛行ルートにしても30年も前の事で、最近の様にダイレクト便では無く、香港・ポート・モレスビー・シドニーと各駅に停車してメルボルン迄行く予定でしたが、何の因果か、この後予期せぬ出来事が起こるんですが……それは本題から脱線・墜落となりますので一カット。

こんな思いをしながら行ったオーストラリアで見付けて買ったボールなんです。

メルボルンのスポーツ店にあった楕円形のボールを買おうと思ったら店員が「お前日本人か？日本人やったら、こっちのがラグビー・ボールや」と言われ「ほんなら、これなんのボールや？」と聞いたら「それはオージーボール」と言はれ「オージーボールてなんでっか？」と聞き直さないと、当時私がオーストラリア人の事をオージーと言う事なんか知る訳ありません。ましてオージーボールなんて言われてもそんな球技聞いた事ありませんでした。

「オーストラリアン・フットボールや」「それが何や判らへんねん」とか言いながら買ったボールなんです。

その数日後の休日、タマタマ商社の担当者にオージーボールのゲームに連れて行って貰い、やっとなオージーボールの何たるかが臆気ながら判った次第です。

あれから30年にもなるんやなと懐かしい思いで一杯です。このボロボールよう手離しまへんねん。

オージー・ボール (Aussie Ball) 怪談

山下氏からご寄稿戴いた大変愉快な昭和豪州赤ゲツト紀行文を#43号に掲載して会員各位にもご覧戴こうとタイプ中ですが、このオージーボールなるゲームとは一体ドンナものなのか？えらく気を引かれますね。

今年の総会に参集された会員サンの内でオーストラリア通のお三方、S25の島村サン、S33の山下サンS37の久我サンがこの件を懐かしく談笑して居られるのを横から聞耳を欲てるのだが……恰も目がくして象を手探りしている様で……何でも

楕円形のクリケット・グラウンドを利用してやる。

ゴール・ポストは4本ある、横バーは無し。

得点は、縦ポストの間をボールが通ると与えられる。

ボール進前は、持って走る、蹴る だけ。

ハンド・パスは禁止、握り拳でノックして斜後へ渡す。

20人でプレーされ、トニカグ良く走り回る。

等々、見た人には判るが、一寸立ち聞きでは理解し難いゲームの様ですネ。

現役チーム近況報告

監督:川崎 光二(S.59卒)

今シーズンのチームは、春から組織ディフェンスを強化してきた。何故なら、昨年迄とは違いFWはスクラムが弱く、BKに決定力がある選手もいない。Bリーグの中でも決して地力のあるチームでは無いと言う自覚を全員が持ち、フィットネス面の強化も続けてきた。

各ポジションに於いても個々のレベルアップを図り全員がレギュラーを目標にしてチーム力の底揚げを行ってきた。結果、今シーズン現在迄で試合に出場しているメンバーは21名だが5回生—1名、4回生—4名、3回生—6名、2回生—6名、1回生—4名と、下級生からも多く選ばれている。

そしてシーズンの戦い方としては、赤沢主将を中心に、各相手チームに対する分析を元にして作った戦法を徹底する事で、全員が「勝利のイメージ」を持ち試合に臨むと言う事でやっている。

いままでの戦績は

- 9/27 神戸大 7—45 天理大
相手チームの分析が全く出来ておらず、前半にディフェンスのミス等からトライされ、終始相手ペースで試合が進み大敗を喫した。
後半FW・BKの繋ぎで1トライを返すのみ。
- 10/11 神戸大 14—41 大教大
春からの差は随分縮まったが、地力の差で後半に差がついた。
後半、ゴール前ラインアウトでモールを押し込み1トライを返す。PG3本。
- 10/18 神戸大 0—21 関西大
体格差を跳ね返す事が出来なかったが、ディフェンス面で健闘。但し、決定力の無さが露呈した。
相手3トライに対し、無得点。
- 10/25 神戸大 24—19 京都大
「勝利のイメージ」通りにゲームが進んだ。京都大はキックを使わぬ戦法が裏目に出た。当方、ディフェンスの勝利だが、3本のトライがタイミング良く取れたのは、幸運だった。
- 11/1 神戸大 12—13 大商大
前半の2トライ、1ゴールのリードを守りきれず、逆転負け。勝利に対する執念の差が出た。また、後半のスタミナ切れも敗因と言える。
11月1日までの5戦については、上述の1勝4敗と苦しい状態だ。 然し
- 11/15 大市大戦:春、大差で敗れたが、彼らは京都大に敗れている。(結果 17:24 で敗)
- 11/22 大産大戦:力に差は無い。(結果 40:19 で勝)
- 11/29 甲南大戦:展開ラグビーで頑張っている。
力に差は無い。
- 12/6 関学大戦:春、1トライ差で敗れたが、
力に差は無い。
この、残る4試合にベストを尽くして行く。
O.Bの皆様方の応援を宜しくお願いします。

ノーサイド

松村 竜男(S.34卒)

ラグビーに「ノーサイド」と言う言葉がある。これは、今までで敵・味方に別れて戦って来たヒフティーンが、試合終了と共に「敵も味方も無くなったぞ」と言う言葉である。

日本のラグビーに「ノーサイドの精神」は在るのだろうか。元・神戸製鋼の大西一平氏は、ニュージーランドに留学中の数多くのマッチの内の或る試合で、殴り合いの乱闘騒ぎになった試合があったが、直後に次の様に述べている。

「当初、僕は相当に戸惑った。言葉が不自由な上に、ついサッキ殴り合った連中とビールを飲むのである。日本人同志なら顔も見たく無い。お互いにシャベリ度く無い。アッチへ行け。と言うのが普通だろう。所がそんな事にはならなかったのである。」

「試合終了の笛が鳴ると、本当に「ノーサイド」になるのである。つまり、敵・味方が一切無くなるのである。激しくやり合った男ほどニツと笑いながらやって来る。」と。

日本のラグビーに於いても「ノーサイドの笛が鳴ったら敵・味方なし、互いに遺恨はのこさず」とされている。然し、ゲーム中に殴り合った二人はパーティではお互い顔を引きつけて笑っている。国民性の違いと言えばそれ迄だろうが、日本人に、もっと「ノーサイドの精神」が欲しい。

今の世の中の不景気で暗い。ラグビーのノーサイドの精神を活かせば政治も経済ももう少し明るくなるのではないか。

サッカーの世界・カップは日本国中を沸かせた。でも、サッカーにはノーサイドと言う言葉は無い。

ラグビーの世界・カップと共に、この素晴らしい言葉をP・Rしてラグビーを「もっと広めたい」ものである。

☆11月号のRugby Magazine誌によると、全日本ラグビー軍主将:Mr. McCormickは対談相手全日本サッカー軍主将:伊原氏が対韓国戦を最重視しているのに対して、対香港戦を最重視している旨の発言だった。仲々面白い対比です。

☆☆1998/H10のラグビーWカップアジア最終予選結果
初 戦 全日本 40—12 韓国
第 2 戦 全日本 134— 6 台湾
最 終 戦 全日本 47— 7 香港
の3戦全勝で、来年1999/H11の10月ウェールズ行きを決めた。

年会費納入のお願い

1. 基本的には、「自動振込」方式をご利用下さい。
☆申込用紙・手続についての御不明点は下記へ御
問合わせ下さい。

〒586-0077 河内長野市南花台1-3-3
森内 敏晴(凌霜ラグークラブ会計担当理事)

2. 従来通り「振込方式」ご利用の方々は、
年会費 10,000円

- 住友銀行 天満橋支店
普通預金 No.957978 凌霜ラグークラブ
- 三和銀行 大阪駅前支店
普通預金 No.27557 凌霜ラグークラブ
- 郵便局 00960-4-302152 凌霜ラグークラブ